

ホーム名：医療法人健泉会 グループホーム西松庵					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご利用者様の希望を第一に考え、快適な時間と心のある介護を理念としている。理念を施設内に掲示することで常に確認し、職員同士が共有している。	「あなたに寄り添い、尊厳を護り、あなたらしさを発揮できる生活の実現」を理念とし、毎朝礼時に唱和した後業務に就く。日々心に留め、なれ合いの介護をしない様にと心掛けている。	リビングへの入り口に理念が明示され、外来者にもホームの理念がよく伝わる。理念の実践に向け今後も努力されたい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入り、積極的に地域行事に参加し交流することで地域とのつながりを持つようになっている。また、施設行事にも参加して頂くよう機会を設けている。	2地区の自治会に加入し、出初式や招待による花見・菊花展・お芋ほり、またボランティアの訪問や園児との触れ合い等、地域との交流は盛んである。	事業主体主催の「西松庵まつり」には地域の方々の参加も多いとの事。今後も地域とのつながりを大事にしながら入居者の生活を支えていって頂きたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症介護施設として介護に関する講習会を定期的に行うことで、地域の方にも認知症に理解を求める取り組みをしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者様やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告するよう心がけ、サービス向上の為の意見交換をしていることで、サービス向上に活かしている。	入居者・家族・老人クラブ会長・市職員・介護相談員の出席を得、2か月に1度開催されている。現状報告・活動報告・ヒヤリハット事例その他意見交換で1時間半程の時間をかけ、サービス向上に向けた会議を取り行っている。	議事録からは、出席者からの質問や助言等も多く出され運営推進会議の機能が果たされていると感じた。今後は自治会や民生委員などにも呼びかけ、より視点を広げられる会議となっていくよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	サービス内容に疑問が生じた場合は、市の担当職員に質問し、早めの解決を心がけている。また事業者連絡会に出席する事で意見交換を活発にし、サービスの質の向上に役立てるよう取り組んでいる。	市高年介護課職員には毎回の運営推進会議に出席頂き、助言等をいただいている。普段から連携が保たれ、協力関係が築かれている。	羽曳野市の高年介護事業（福祉事業）への取り組みは非常に熱心である。今後も協力関係を築きながら、ホームの質の向上へとつなげていって頂きたい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束については、その都度職員全員に理解してもらえるよう説明もしくは勉強会を行い、個々のご利用者様に適した介護を心がけ、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。しかし職員全体への理解は不十分であると考えられる。	身体拘束の経験はない。前回外部評価後、より理解を深めるために事業所内や外部研修にて勉強をしてきた。安全確保の為に玄関やデイサービスへの通路口は電子キーを使用しているが、見守りは怠らず、また庭へは自由に出入り出来る状態である。	どのような行為が身体拘束にあたる行為となるかを、普段から意識を持って支援にあたって頂きたい。更なる職員の意識向上に向けた取り組みに期待する。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常的に行われている対応が虐待につながる可能性があるなど、職員どうしの意見交換の中で実践、学習していくように心がけている。		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>現状では職員が自発的に学んでいることや講習会などに参加し、知識の向上に努力するよう働きかけている。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>時間をかけ丁寧な説明を心がけ、ご利用者様や家族の方に十分納得していただき、分からない点はいつでも気軽に確認して頂けるように説明している。</p>		
10	<p>6</p> <p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>職員は常日頃から、ご利用者様及びご家族の話や意見に傾聴の姿勢を心がけている。また外部者に対しては、月に1度訪問される介護相談員の意見をうかがう機会を設けている。</p>	<p>家族との信頼関係を大切にしており、来苑時には会話に心掛けている。家族からは支援に対する感謝の言葉が寄せられている。</p>	<p>積極的な意見や要望の聴取で更にホームの運営に活かしていきたい。運営推進会議時に出された意見や提案の取り組み状態を、次回の会議で公表されたい。</p>
11	<p>7</p> <p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>個別あるいは会議の場で話を聞く機会を作っている。また職員どうしが話をしやすい環境作りに日々取り組んでいる。</p>	<p>疑問点は残したままにせず解決し、ホームの質の向上につなげていくように努めている。“おむつ類の費用を減らす(家族の負担を減らす)にはどうしたら…”という職員の声から、おむつの使い方→工夫→トイレ誘導、へと支援の見直しにもつながった。</p>	<p>今後も毎日の支援に満足する事無く、職員による積極的な提言や提案に期待したい。</p>
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>オーナー自ら個別に職員の話聞く機会を持ったり、職員研修に参加出来るような取り組みをしたり、資格取得者にお祝いを送ることで向上心を持って働けるよう努めている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>施設内研修の担当職員を決め、定期的に研修を行うことで職員の質の向上につながるような取り組みをしている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>羽曳野市のグループホームが開催する計画作成者の集いに月に1回参加し、その会議にて年2回施設職員交流として勉強会を行っている。</p>		

## II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所面接時に詳細確認をし、本人や家族の状況把握に努めている。希望されれば体験入所も検討することでご利用者様の現状の共有を心がけている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人との信頼関係と同様。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人及びその家族のその時の状況把握をし、当施設サービスに関わらずご本人の状態に合ったサービスを一緒に考えさせてもらっている。入居後も希望や本人の状況、周りの状況により、必要に応じ他のサービス利用も含め検討している。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>簡単な部屋の掃除、洗濯ものたたみなどを一緒にできるご利用者様が多いので出来る範囲でご利用者様の意見、ペースを尊重しつつ職員があまり介入しすぎないように注意している。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族様が施設行事に参加する機会を作り、一緒に楽しむことが出来るようにしている。ご家族様が気兼ねなく気軽に面会に来て頂けるような配慮や、本人の状況に応じて面会や外出の機会を増やしてもらえよう家族の方にも依頼している。</p>		
20	8 <p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>本人が自宅で使用していた家具や、生活用品の持ち込みを可能にし、ご利用者様にとっての馴染みの環境が継続できるような支援に努めている。</p>	<p>墓参りや思い出の場所など、個人的な場所への訪問は家族の協力で継続されている。神社への初詣や喫茶店での飲食など、継続した取り組みがなされている。</p>	<p>思い出の場所や人を探る努力も重ねながら、今後も馴染みの場所への継続した訪問や人との対面に努めていって欲しい。</p>
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>交流を深めやすく出来るようレクリエーションの場を作ったり、気が合う合わないという理由だけでなく様々なご利用者様の気持ちを考慮した上でも食事の席を決定している。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退所時に必要であればいつでも気軽に相談して頂けるように声掛けはさせて頂いています。また適宜電話などで現況確認もさせて頂いています。</p>		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴、散歩など1対1での関わりの中で、本人の希望や意向などを聞くように心がけてはいるが、言葉による確認がうまくいかない場合には、表情もしくは動きからも気持ちを把握するようにしている。	職員には、入居者一人づつに寄り添って対応するように、押しつけがましくならない様にと指導している。スキンシップを大切に、ゆっくり笑顔で対応し、表情を見て意を汲むよう努めている。	アンテナを張り、気づきのキャッチを心掛けながら意識した取り組みで、今後も支援にあたられたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入所時に行う面接の中で生活歴などを確認しているが、入所後は本人及び家族に対しても面会時に少しずつ聞き、把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録をすること、確認すること、申し送りを十分することで全員が総合的に把握出来るよう努めている。個人に対して医療的な健康管理には特に注意している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的開催するケアプラン会議の時には施設内関係者の話し合いを中心としているが、それに先立ち必要時には本人及び家族、主治医の意見を確認するようにしている。	家族には、事前に電話で意見や要望・不便に感じている事などを伺っている。介護計画の見直しは6カ月毎に行い、長期目標6カ月・短期目標3カ月で設定。各入居者の介護計画書はケースファイルに入れ、職員に見る習慣付けを行っており、情報は共有出来ている。	今後も本人や家族の意見・要望を取り入れ、その人その人に即した介護計画の作成に取り組まれたい。毎日が張り合いのある生活となる様、達成感を味わえる身近な目標設定でありたい。
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は日中、夜間を通して記入し、日々の実施状況を把握しながら介護計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービスや小規模多機能施設の行事に参加することで本人の気分転換を兼ねた取り組みもしている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	合唱など様々な活動の専門家にボランティアとして参加して頂き、支援している。介護相談員の訪問もあり、その都度ご意見をうかがっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所以前からのかかりつけ医の受診を希望される方は、出来る限りご本人様、家族様の意向を尊重し、医師への報告もこまめに行い、体調管理に努めている。	2週間に一回、関連医療機関の内科医による訪問診療、歯科医による口腔内チェックも行われている。認知症の症状についても専門医の指導を受けることができる。日常的には看護師の判断で処理されている。	高齢者の特徴、身体的、精神的変化を捉えながら、医療・介護の円滑な連携に期待する。

31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>ご利用者様の体調変化に気を配り、必要時には看護師に相談し、適切な受診、看護を受けられる様支援していく。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時には定期的に病院に連絡を入れるなどをし、本人の状況把握に努めている。退院時には、家族に説明し、同席するようにし、退院後の対応についての情報、意見、方針の共有に努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所契約時に終末期の意向についてお伺いし、また入所後の体調変化に合わせ意向確認しながら話し合いの機会を持ち、施設内で可能な対応をその都度説明しながら方針を共有出来るよう努めている。</p>	<p>現在、終末期を迎えている入居者がいる。家族からの要望も受け、医療との連携は確立できており、スタッフ学習も行っている。</p>	<p>暮らし慣れた生活環境の中で入居者にとって終の棲家、見送られる事が当たり前になる時代とも思える。症状の緩和で家で看取ることになるのか、選択肢が提案できる支援も今後の課題である。</p>
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時、事故発生時に備え、対応マニュアルを作成し、活用出来るよう研修を行っている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署の方に来て頂き、ご利用者様も参加しての災害訓練も行っている。地域の方とは交流を深めることで協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>地域の協力も得て入居者も参加した実施訓練を行っている。AED講習も受けている。近くに池があるが災害時想定での対策は今後の課題である。災害時に必要な水、排泄備品等保管されている。</p>	<p>地域の協力も得ながら入居者の安全確保のためのシュミレーションを基本に夜間災害想定も具体化されたい。</p>

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>声掛けの仕方はその時々で個別で職員が行ったり、会議にてよりよい対応が出来るよう話し合いの機会を設けている。意思疎通の困難な方の声掛け、介助には特に注意している。</p>	<p>入浴時、排泄行為時、人目にさらされないよう配慮している。呼称も姓で統一し、ケースによっては家族の了解を得ている。</p>	<p>これまでの生活歴から入居者の大切にされてきたことを把握し、守り支援する事業所の考え方が、今後とも継続される事を期待する。</p>
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>生活の中で、おやつ時間の飲み物や今日の服装選びなど自分で決めて頂いている。また必要に応じて、ご家族様からお話を伺うなど、ささいなことでも自分で決めて頂くことを大切にしている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>職員側の決まりを優先してしまうこともあるが、状況に応じた本人の希望やペースに合わせた対応を心がけている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>その日の洋服を着る前に選んでもらったり、施設内にて本人の希望を聞きながらカットしてもらいようにし、部屋には本人が用意した化粧品を置き、いつでも使えるようにしている。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>栄養士から献立を決める前に好みを聞いてもらったりしている。食事は必ず職員とご利用者様が同じ場所で食べるようにし、会話の中から嗜好の確認をするようにしている。</p>	<p>オープン時より食べることを大切に、旬の物をとり入れ、副食の種類も多く食器にもおもてなしの感がある。一人ひとりの体調を加味し、調理も工夫されている。残さず食べることが習慣になっている。</p>	<p>「食べることは生きること」経営者の考え方は入居者だけではなく、職員にも同じ食事が提供されている。食事を楽しむことが共有できている。「風邪をひく人がいないんですよ」が答えをだしている。</p>
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>1日の摂取カロリーは通常1600kcal程度とし、制限食は主食や芋類にて量の調節をしている。食事量、水分量共に毎日チェックし、体重管理と共に習慣や好みを考えながら必要量を確保し、体調管理を行っている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後の口腔ケアの他、歯科衛生士による口腔ケアも定期的に行っている。必要があれば歯科衛生士より歯科医に報告し、指示を仰ぐようにしている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>食事前や入浴前など、他のご利用者様と同じタイミングで声掛けしたり、個々の状況や体調に合わせて対応したり、必要最低限のおむつやパット使用により、清潔かつスムーズな排泄を心がけている。</p>	<p>朝食後トイレでの排泄習慣を支援をすることで成功例もある。入居者の排泄サインを共有し誘導している。感覚自立の入居者に対しても見守り支援で自信に繋げている。</p>	<p>入居者に失敗させない支援、言葉で支援を求めることが出来ない入居者に対して行動から判断しての誘導は介護者の意識が絶えず入居者に向けていることの証である。職員同士のチームワークのあり方を気づかせてくれる。</p>
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>把握状況の記録、把握に努め、食事、水分量、運動などにより便秘予防に努め、医師の指示により服薬なども活用し、スムーズな排泄を促せるように努めている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>週3回の入浴は固定化されているが、お風呂の日を楽しみにされ、ご利用者様のタイミングで行われている。体調などにより必要に応じた変更は実施している。</p>	<p>入居者全員、一般浴槽で入浴されている。入浴中の安全、体調の変化の把握につとめ、季節対応で、ゆず湯・菖蒲湯の提供、時には一緒に歌を歌いながら入浴を楽しんでいる。</p>	<p>今後共、安心して入浴を楽しむ支援を継続されたい。</p>

46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事時間を中心に生活されているが、起床、就寝も本人のリズムを考えた対応も実施している。季節に応じた寝具、空調管理も気を付けている。昼食後には足を延ばしてくつろいでもらう声掛けも実施している。		
47	○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報はすぐに確認できる場所に設置されており、個々に応じた服薬支援に努めている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	合唱、手芸など趣味の部分や部屋そうじ、洗濯ものたたみ、テーブル拭きなど役割の部分と、その場への参加のみも含めて両方を提供している。また散歩などに参加することで気晴らしにもなっている。		
49	18 ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	施設内の庭や歩いて行ける場所までの外出を考え、天候や本人の体調に合わせた上で参加して頂いている。地域の方の協力により、その方の自宅の庭にてお花見をさせてもらう外出レクも行っている。	4～5人で喫茶店へ。1階の園庭は自由に出入りができ、果実の樹木や草花もあり、椅子・テーブルも置かれている。保育園の子供たちと近隣での芋ほりを一緒に楽しむなど地域の協力も活かされている。	日常的にはユニット間の交流、ディサービスとの交流で入居者、利用者が顔馴染み、16名の職員、ボランティアの受け入れ等、環境の変化を受け入れている様子がある。事業所のケアは認知症の進行を遅延させているとも考えられる。
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別の外出時には、本人が自分でお金を持ち、買物出来るよう援助している。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	事前に家族に了解を得たうえで、本人の希望があれば、職員が介助し、電話をかけるようにしている。かかってきた電話には出てもらい、手紙は必要があれば代読させて頂く。		
52	19 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭には四季折々の花を楽しんでもらえるようにしている。庭の花を見えるところに飾るなどし、季節の移り変わりを感じてもらえるようにし、居心地よい空間づくりを心がけている。	十分な採光、障子が落ち着いた雰囲気を作り出している。調理場がオープン様式で入居者の生活エリアにあり「どうぞ一緒に」という感じである。共有スペースの一角では入居者が腰かけたり、上って休息したり、洗濯物がたためる畳間がある。	大きなソファで寄り添って休息する姿は日常である。ゆっくり静かな時間の流れが1時間程ある。入居者にとってホットできる環境を今後も続けられたい。
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合うもの同士が近くに座れるよう、食卓以外にソファやいすなどを設置し、自分の好きな場所ですごしてもらえる工夫をしている。		
54	20 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いやすく昔から使われていたなじみの品を持ってきてもらえるよう声掛けを行っている。	大きな時計、カレンダーは目につきやすい位置にある。ベッドは事業所提供、他は持ち込みになっている。清掃、シーツ等の洗濯は事業所職員が行なっている。	家族の訪問が多いとのこと。入居者の生活域が広がるチャンスに活かされたい。
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室などに手すりを設置し、家具も安定したものを置くようにしている。トイレマークや入浴日の表示、毎日の献立記入、自室にて記名ののれんをかけたたり、タンスの引き出しには衣類の種類を表示し、少しでもわかりやすいよう工夫している。		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいの ③職員の3分の1くらいの ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいの ③家族の3分の1くらいの ④ほとんどできていない